

令和 03 年(2021 年)度 受賞者

高円宮殿下記念地域伝統芸能賞

硫黄島八朔太鼓踊り保存会

地域伝統芸能大賞 保存継承賞（第 1 類）：地域伝統芸能の実演に係わる団体又は個人

真桑文楽保存会

地域伝統芸能大賞 活用賞（第 2 類）：地域伝統芸能を活用した行事の実施主体

博多松囃子振興会

地域伝統芸能大賞 支援賞（第 3 類）：衣装、用具等の製作、人材等の確保に係わる団体又は個人

横尾歌舞伎保存会衣裳部

地域伝統芸能大賞 地域振興賞（第 4 類）：その他特に顕著な貢献のあったもの

天孫降臨霧島九面太鼓保存会

鶴見田祭り保存会

地域伝統芸能奨励賞

岩手県立北上翔南高等学校鬼剣舞部

受賞者 プロフィール

高円宮殿下記念地域伝統芸能賞

いおうじまはつきくたいこおどりほぞんかい

硫黄島八朔太鼓踊り保存会

（鹿児島県三島村 硫黄島八朔太鼓踊り）



鹿児島県の離島である三島村に伝わる硫黄島八朔太鼓踊りは、400 年以上伝わる太鼓踊りの最中に奇怪な仮面神「メンドン」が登場するというユニークな伝統芸能で、国指定無形民俗文化財です。また、「メンドン」は、ユネスコ無形文化遺産「来訪神：仮面・仮装の神々」に登録されています。

起源ははっきりしませんが、一説によると慶長 3 年、豊臣秀吉が朝鮮出兵の際に島津義弘公に従い、硫黄島から長濱吉延、岩切、芥切の 3 人が従軍し、泗川の戦いで窮地に落ち込んだ義弘公を助けて戦功をたて、これにより恩賞を賜り大いに面目を施したので、その凱旋祝としてこの踊りを奉納するようになったということです。

鉦を持った歌い手が歌い、矢旗を背負い太鼓を抱えた踊り手が独特の節に合わせて賑やかに踊ります。踊りも佳境に入る頃、奇怪な面を被った「メンドン（悪魔払いの神）」が現れ、スッペン木と呼ばれる神木で見物人を追いかけてたりして悪魔払いをします。「メンドン」がユネスコ無形文化遺産に登録されてからは観光客が増加傾向にあり、地域の盛り上がりと共に関心が高まっています。

地域伝統芸能大賞 保存継承賞（第 1 類）：地域伝統芸能の実演に係わる団体又は個人

まくわぶんらくほぞんかい

真桑文楽保存会（岐阜県本巣市 真桑人形浄瑠璃）



この人形浄瑠璃芝居は、当地方の灌漑用水に功労のあった福田源七郎（元禄五年没）の亡魂を弔うために「義農源七郎」を演じたのに始まると伝えられております。

多くの伝承演目や重要有形民俗文化財の真桑文楽専用の舞台を有している貴重な伝承です。300 年以上の伝統を持つ真桑人形浄瑠璃は、100 名を超す会員によって保存会が結成されています。後継者育成にも力を入れ、小中学校でも人形浄瑠璃も行われています。

また、年一回の物部神社例祭の奉納神事の他にも、文楽の日開催、岐阜県文楽・能大会出演等各地で上演を精力的に行っています。

真桑人形浄瑠璃は本巣市の自主運営バスの車体にもイラストが描かれるなど本巣市を代表する伝統芸能の一つです。

はかたまつばやしんこうかい

博多松囃子振興会（福岡県福岡市 博多松囃子行事）



国指定重要無形民俗文化財の「博多松囃子」は、福岡・博多を代表する伝統行事で、福神、恵比須、大黒の三福神を中心とする行列と稚児舞から構成される伝統芸能です。

松囃子は中世に流行した芸能で、新春に祝言を述べ、種々の芸を演じたものであり、博多においても室町時代頃から松囃子を行っていた記録が残されており、「博多松囃子」は中世以来永きにわたり松囃子が博多で伝承されてきた事例として、芸能の変遷の過程や地域的特色を示しているという点で評価されています。

現在、毎年5月3・4日に開催され、200万人以上の人出で賑わう博多どんたく港まつりのパレードの幕開けを、三福神や稚児の行列で飾るほか、市中を祝って回るなど、どんたくの中心的な存在として重要な役割を果たしています。

よこおかぶきほぞんかいしやうぶ

横尾歌舞伎保存会衣裳部

（静岡県浜松市 横尾歌舞伎の鬘・衣裳の製作と修理）



横尾歌舞伎は毎年10月第2土曜・日曜の2日間、開明座と呼ばれる舞台で行われる農村歌舞伎です。役者だけでなく義太夫・三味線弾き・下座音楽のほか、振付・衣裳・床山・舞台係など裏方を含め、全て地元の人々で賄っています。

このうち衣裳の製作・修理・管理と鬘の修理・管理を担い、公演の際には着付・床山として活動しているのが「床山衣裳部」です。部員は10人前後で推移しており、年間を通じて衣裳と鬘に関する全ての作業を担当し、戦前から伝えられている年代物の1000点を超える衣裳や100点を超える鬘の縫いから大柄な現代人にあわせた新規の衣裳制作などを行っています。

てんそんこうりんきりしまくめんだいこほぞんかい

天孫降臨霧島九面太鼓保存会

（鹿児島県霧島市 天孫降臨霧島九面太鼓）



霧島九面太鼓保存会は昭和47年、旧牧園町（現：霧島市）の商工会青年部の活動をきっかけとして発足しました。以来、霧島神宮の宝物として保存されている九つの面と、伝え継がれている天孫降臨の神話を基に国の始まりの荘厳さと勇壮さを太鼓を使って表現する霧島市指定無形文化財の郷土芸能太鼓であり、「天孫降臨霧島九面太鼓」を主演目として公演を行っています。

また保存活動の活性化、打ち手の確保及び後継者育成、観光振興活動を目的に、年間80回程度の公演活動を行っており、特に毎年市内で行われる「天孫降臨霧島祭」には県内外から1,000人を超える来場者があり、霧島市はもとより鹿児島県の観光振興にも努めています。

平成26年には第65回南日本文化賞（地域文化部門）受賞し、平成30年にはNHK大河ドラマ「西郷どん」のオープニングに出演しました。

つるみ たまつりほぞんかい

鶴見田祭り保存会（神奈川県横浜市 鶴見の田祭り）



鎌倉時代から続いているともいわれていたこの地域の田祭りは明治以降途絶えました。関係者が板橋や三島など近隣に残る田祭りや文献、あるいは専門家の意見を参考に、昭和62年に再興されました。現在は鶴見神社の境内に設置された舞台で、毎年4月29日に実施され、子供たちも早乙女の姿などを演じ、田植えから稲刈りを通じた稲作の恵みをユニークな踊りとともに表現しています。

平成29年は復興30年という節目を迎え、地元の方々だけでなく、他の地域からも多くの方が来て、当日はまち全体が大変な賑わいが出ているなど復興した無形民俗の振興とまちの賑わいを兼ねたユニークな祭りに成長しています。

岩手県立北上翔南高等学校鬼剣舞部

(岩手県北上市 鬼剣舞)



岩手県立北上翔南高等学校は、大正 8 年に創設された前身の岩手県立黒沢尻南高等学校から平成 16 年 4 月に改称しました。

改称と同時に鬼剣舞部が発足し、鬼剣舞の伝承活動を半世紀にわたって続けてきた岩手県立北上農業高等学校から引継ぎ、岩崎鬼剣舞保存会から指導をいただいて、約 80 名の部員で部活動として取り組んでいます。日頃は老人福祉施設の慰問をはじめ、各種イベントや国際交流事業などで公演を行っています。

また、これまでに全国高等学校総合文化祭郷土芸能部門最優秀賞、文部科学大臣賞、文化庁長官賞を受賞しています。